

2022年5月11日(水) 12:45~14:00 2021年度決算・中期経営計画説明会(投資家向け)
<質疑応答概要>

Q.

2021年度の中国事業の営業利益額を教えてください。また、中期経営計画の最終年度である2024年度の中国事業の営業利益額のイメージを教えてください。

A.

中国事業の損益は2022年度計画からの開示としているため、2021年度の実績については開示を控えさせていただきます。2024年度には億円単位の黒字を計画している。

Q.

中国事業は2023年度にブレイクイーブンになるという理解でいいか。

A.

2024年度の黒字を踏まえると、2023年度~2024年度頃がブレイクイーブンに近い。

Q.

2022年度計画が減益である理由を教えてください。

A.

減益要因は、販管費については前年比で38億円増加する計画だが、その大部分は中国子会社での増加であり、主に天津工場の稼働開始までの費用である。その他には中国でのIT基盤構築に向けた先行投資やビジネスの進捗を見越した人員の増加が要因として挙げられる。売上高は伸長するも、コスト面での増加が大きく減益となる。

Q.

為替感応度を教えてください。

A.

1円円安になった場合、約13~14億円のマイナス影響になると捉えている。為替予約を実施しリスクヘッジしているため、直近のレートがそのまま影響するわけではない。

Q.

営業利益率が2022年度、2023年度に悪化した後に、2024年度に回復する理由を教えてください。

A.

2023年度についてはさらなる為替の変動および研究開発費や原資材費の増加等コスト面の悪化により、営業利益がボトムになると想定している。2024年度はそれら一過性の費用が減少し、国内・海外ともに販売伸長することによって、営業利益率18%を見込んでいる。

Q.

これまでの中期経営計画も投資フェーズであり、新中期経営計画においても投資フェーズであることから、成長投資から投資回収の時期が遅くなっている印象を受ける。この点についてコメントがほしい。

A.

前中期経営計画で設備投資やM&Aの遅れはあったが、これらは今回の中期経営計画において早い段階でカバーし

ていく。加えて今回の中期経営計画では、国内事業の成長に伴う大型投資を実施していくが、それらは計画に基づく回収を見込んでいる。

Q.

投資が投資を呼んで、マネタイズされているのが見えづらいと感じる。もう少し企業価値、株主価値にも配慮した戦略を練っていただくことは可能か。

A.

株主価値に配慮した戦略は重要な課題であると常に認識している。前中期経営計画の残課題の解決に加えて、想定している国内の医療用漢方製剤の安定した伸長に対応すべく生産設備を整えていくことで、結果として株主価値の増大に結び付けていきたいと考えている。

Q.

大株主である平安保険との関係および経営に関するコミュニケーションがどのような形で図られているか、また両社間の中国事業への方向性に相違が生じていないかを教えてほしい。

A.

平安グループのトップである馬董事長を含めた経営幹部とのコミュニケーションは常に図っている。中国の伝統的な医薬品である中成薬の近代化・標準化を進め、中国国民の皆さんにどのようにお届けするのかというのが、日頃から話し合っている最大のテーマであり、それ以外がテーマになっていることはない。また、中国の伝統医学に関しては、中国国内における規制等、様々なことをケアしながら進めていかなければならず、金融事業などに比べ難易度が高く時間を要するというを理解していただいたうえで出資していただいている。M&A などの投資についても、採算性や評価について双方で意見交換しながら進めている。

Q.

地政学リスクが高まっており、ツムラは中国の動向によって大きな影響を受ける会社の一つであると認識されている。生薬の調達先については日々のリスクマネジメントに加えて、中期経営計画の期間での具体的な対策はあるか。

A.

生薬は主に植物であり、自生するエリアが決まっていることから、全てを日本で栽培できるかという点と不可能である。これまで産地および産出国の複線化を進めており、この考え方は継続している。

想定される有事においては、生薬の保管先やサプライチェーンのあり方などについて、ビジョンの期間内で実施すべきところは順次実施していく。

Q.

生薬調達について、自社管理圃場の現在の比率および中期経営計画の期間中にどのくらいを目指していくのかを教えてください。

A.

現在の自社管理圃場比率は 79.6%であり、バッファを考慮した場合、この水準で十分だと認識している。

生薬は予定よりも収量が多くなる場合があるが、その場合でも当社は基本的に産地会社から全量購入することで関係性を維持し、高品質な生薬を安定調達するという考え方である。

以上

【注意事項】

本資料の内容は、説明会での質疑応答をそのまま書き起こしたのではなく、主旨を踏まえて要約したものであることをご了承ください。